

# 『京都大学言語学研究』第38号原稿募集

## 投稿規定

- 掲載論文は京都大学学術情報リポジトリ(KURENAI)にて公開される。
- 同一筆頭著者は、下記 A, B の種別のうちそれぞれ最大1つ投稿できる。ただし、A, B の種別に両方とも投稿することはできない。
- 原稿は随時受け付けるが、編集の都合により掲載が次号に持ち越される場合がある。
- 採否は編集委員会で決定し、2か月以内に通知する。
- 執筆者には掲載号と論文の電子ファイルを進呈する。抜き刷りを希望する場合は自己負担となる。

## 投稿方法

- 投稿は電子メールにて受け取る。
- 電子メールでフォントの埋め込み処理をした PDF 形式のファイルを提出。
- 原稿データ（下記項目）を原稿とは別のファイルに記載し、電子メールに添付して提出すること：
  - 1. 題目 2. 英語題目 3. 執筆者名、ふりがな 4. 原稿種別
  - 5. ページ数（要旨は含めない） 6. キーワード 7. 所属機関
  - 8. 連絡先（郵便番号、住所、電話・FAX 番号、e-mail アドレス）

## 執筆要綱

- 使用言語 基本的に日本語か英語で執筆することが望ましい。それ以外の言語に関しては、編集委員会に相談すること。
- 種別
  - A 研究論文
    - 完成した研究論文
    - 研究ノート — 研究の初期段階をまとめたもの
    - 書評論文 — 他者の出版物に対し独自の考察・見解を述べた論文
    - 言語資料 — 談話資料、語彙集など言語資料をまとめたもの
  - B 書評 — 他者の出版物を紹介・批評したもの
- 原稿の様式
  - サイズ A4 版用紙
  - 枚数 論文 30 枚、研究ノート・書評論文 20 枚、書評 10 枚、言語資料 30 枚迄とする。
  - 書式 『京都大学言語学研究』のホームページ(<http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/linguistics/lin-kulr/>)上に掲載されたスタイルファイル、或いは word テンプレートを使用することが望ましい。書式については上記ファイルを参照のこと。
  - 図表 モノクロのみとする。
  - 要旨 論文タイトルの下に論文の執筆言語と同じ言語で書かれた要旨・キーワードを載せる。要旨の字数制限は日本語 400 字以内、英語 20 行以内とし、キーワードは 5 つまでとする。また、本文の後ろに執筆言語が日本語の場合は英語、その他の言語の場合は日本語で書かれた、A4 版用紙 1 頁以内の要旨・キーワードを書く。書評については要旨・キーワードは不要とする。

■ 氏名 投稿時は氏名を記入しないが、校正の際、担当者から記入の指示がある。

■ 書評タイトル指針

第1著者名・他の著者名『書名』版、出版地：出版社、発行年、ローマ数字頁数＋頁数

西田龍雄（著）『西夏文華嚴經 I』京都：京都大學文學部、1975、xii+179pp.

Yoshida, Kazuhiko *The Hittite Mediopassive Endings in -ri*. [Studies in Indo-European Language and Culture. vol.5], Berlin: Walter de Gruyter, 1990, xi+218pp.

■ 参考文献指針

和文、欧文、その他言語の文献に分けてアルファベット順に並べる。

氏名を2通り以上併記する場合は、最初に記された氏名で並べる。

【雑誌論文】

第1著者名・他の著者名（発行年）「論文名」『雑誌名』巻数：頁数.

【論集などに所収の論文】

第1著者名・他の著者名（発行年）「論文名」編集者（編）『論文集名』頁数. 出版地：出版社.

【単行本】

第1著者名・他の著者名（発行年）『書名』 版, シリーズのタイトルと巻号. 出版地：出版社.

【学位論文】

著者名（提出年）「論文名」学位論文の種類, 大学名.

田窪行則 (2005) 「中国語の否定：否定のスコープと焦点」『中国語学』 252：61-71.

Catt, Adam (2014) The Derivational Histories of Avestan *aēsma-* ‘firewood’ and Vedic *idhmá-* ‘id.’ In Stephanie Jamison, H. Craig Melchert, and Brent Vine (eds.) *Proceedings of the 25th Annual UCLA Indo-European Conference*. Bremen: Hemen, 39-48.

曾布川寛・吉田豊編 (2011) 『ソグド人の美術と言語』京都：臨川書店.

風間喜代三・上野善道・松村一登・町田健 (2016) 『言語学』2版, 東京：東京大学出版会.

定延利之 (1998) 「言語表現に現れるスキヤニングの研究」博士論文, 京都大学.

Tida, Syuntarô (2006) *A Grammar of the Dom Language*. Doctoral dissertation, Kyoto University.

## 編集委員会連絡先

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

京都大学大学院文学研究科言語学研究室

電話・FAX：(075)753-2827 電子メール：kult.editor@gmail.com

※ご不明な点はお問い合わせください。